

第3回 白井市在宅医療・介護連携研修会 「なぜ自立支援型地域ケア会議？」

平成30年2月1日 in 白井市保健福祉センター 検診室

平成30年2月1日（木）に「自立支援型地域ケア会議」をテーマに第3回研修会を開催いたしました。

「地域ケア会議」は、地域包括ケアシステムの実現に向けて、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備とを同時に進めていく手法とされています。市でも今年度から試行的に取り組み始めました。

今回の研修では、改めて「自立支援」について考え、なぜ地域ケア会議が必要なのか、また多職種が地域ケア会議に臨むうえでの心構えについて理解していただき、さらに模擬地域ケア会議演習を通して具体的にイメージしてもらうことを目的に実施しました。

お忙しい中、ご参加いただいた48名の医療職、介護職の皆様、ありがとうございました。



《 第1部 説明 》

「自立支援型地域ケア会議について」

白井市地域包括支援センター

内容

- 白井市の高齢者人口の将来推移、要介護認定者数の見込みなど、介護保険を取り巻く現状について
- 地域ケア会議とは
- 自立支援型地域ケア会議開催に至った経緯
- 自立支援型地域ケア会議の目的、対象、日程 など

《 第2部 講義 》

「なぜ自立支援型地域ケア会議？」

講師：千葉県千葉リハビリテーションセンター

地域連携部 部長 田中康之 氏

まず初めに・・・

「あなたは自立支援とはどういうことだと思いますか」
研修参加者に考えてもらいました。

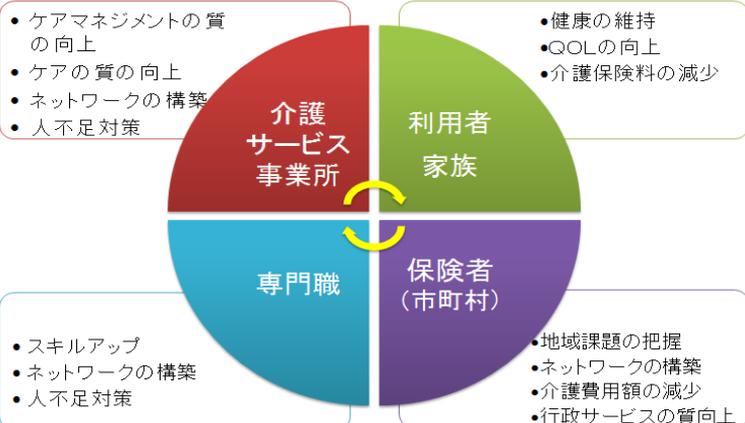
＜参加者の考え＞

- ・本人の望む暮らしに近づけるように支援すること
- ・自分の意思で判断・決定し生活できるように環境を作る手伝い
- ・どう生きたいかに沿うこと
- ・自分のことを自分でできるように援助すること
- ・自分で出来ることを増やしていくこと etc.

職種・個人によって、「自立支援」という考え方に差異があることを理解しましょう！

それを踏まえた上で「自立支援型地域ケア会議」では、丁寧な議論をする必要があります。

介護予防のための地域ケア個別会議として期待されること



地域ケア会議に臨むための心構え



《 第3部 模擬自立支援型地域ケア会議 》

司会者とケアマネ役を地域包括支援センター職員が務め、助言者として参加者の中から理学療法士・作業療法士・主任介護支援専門員・社会福祉士・保健師の方々にご協力いただきました。
架空の事例をもとに、実際の地域ケア会議の流れに沿って取り組んでみましたが……。

模擬会議出席者の感想

会議の目的が判らないままになってしまい、助言ではなく、状態像を確認する質問が多くなってしまった

「失敗の経験を重ねながら、とにかく数をこなしていくこと」が大事と、田中先生からコメントをいただきました。



今まで行ってきたケース会議やカンファレンスとは別物である認識を持たないといけない。

5分で書類を読み込むことは困難だった。

専門用語が分からず、質問されて困ることがあった。会議終了後、プランについて助言を得られた実感が持てなかった。



模擬会議出席者(司会者・ケアマネ役含めて)一同、「このままではマズイ！」との思いから、後日再度集まり、振り返りと今後の対策について話し合いました。

その結果、左記の内容に取り組むことにしました。

- ・会議資料は事前に配布する。
- ・ケアマネの事例説明の方法を定型化し、説明内容の統一を図る。
- ・助言者向けの勉強会を開催する。(対象者はリハ職、地域包括支援センター職員)
- ・事例に不足している情報については、まずは司会者が確認を行う流れとする。
- ・助言者が質問をするからには、答えを聞いたあと助言で終わらせるようにする。
- ・抽象的で理想的な助言ではなく、問題解決の行動につなげられる助言をする。
- ・ケアマネに気づきを与えられるような質問や助言を行う。

参加者アンケート集計結果報告

【職種】(回収数 41)
ケアマネジャー 21名
リハビリ職 7名
介護職 2名
保健師 5名
社会福祉士 4名
その他 2名

【参考になった内容】※複数回答
自立支援の考え方 25
自立支援型地域ケア会議の概要と目的 28
模擬地域ケア会議 30
会議参加者への講評(助言者に求められる役割) 31

【来年度の会議への参加にあたり、不安や不明な点があるか】
ある…28人 ない…13人
※内容の一部を紹介します。
・限られた時間で有意義な話し合いができるのか不安
・専門用語を使わない、進め方のルールなど整えてほしい
・地域の特性、資源等が分からない
・通常業務をしながら、時間的な負担が気になる。

平成30年度より助言者に市内リハビリ専門職に加わっていただき、月1回自立支援型地域ケア会議を開催いたします。高齢者のQOLの向上の実現のために、有意義な機会になるよう皆さんと協力しながら作り上げていきたいと思っております。ご協力よろしくお願いいたします。